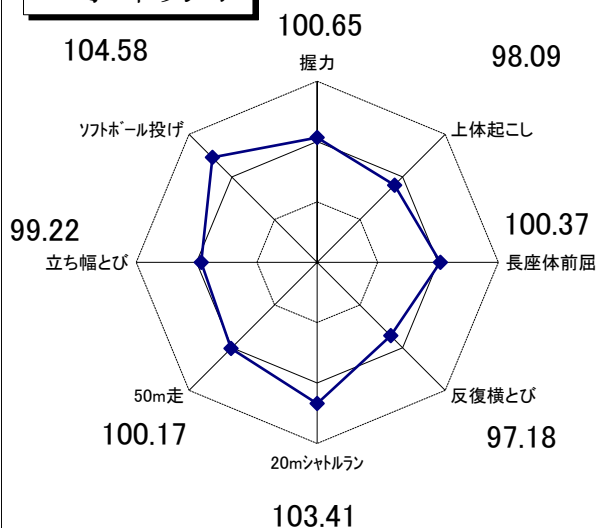


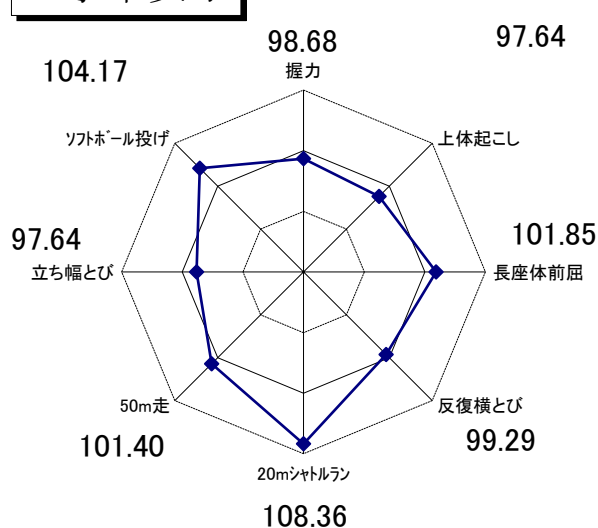
新体力テスト 郡平均と県平均との比較と考察

- ・グラフ中の数字は県のデータを100とした時の指数を表す。
- ・計算式は、 $(\text{郡平均}) \div (\text{県平均}) \times 100$ である。(県平均は令和5年度)
- ・ただし、50m走については、 $200 - (\text{郡平均}) \div (\text{県平均}) \times 100$ で計算する。
- ・どの種目も指数が大きいほど能力が優れていることとなる。

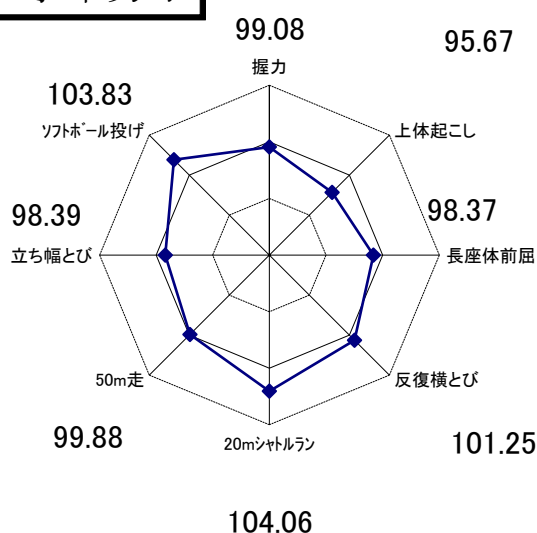
5 学年男子



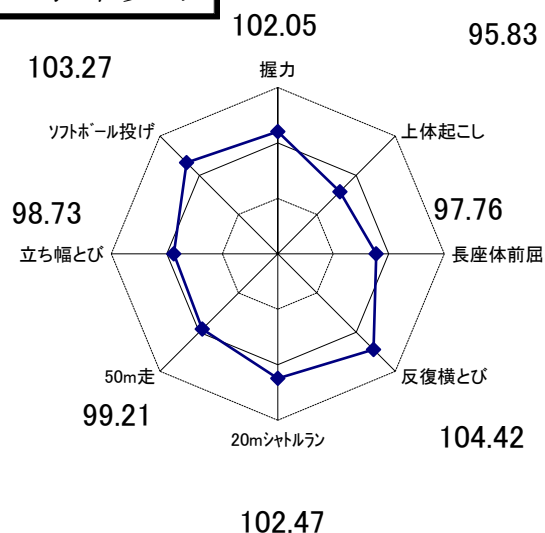
5 学年女子



6 学年男子



6 学年女子



【結果と考察】

◇県平均と郡平均との比較より

- ・5学年男子は、県平均を上回る、または近い数値が多く、県平均レベルの運動能力が備わっていると考えられます。
- ・種目別に見ると「ソフトボール投げ」「20mシャトルラン」については、5学年、6学年男女共に県平均を上回りました。一方、「上体起こし」「立ち幅とび」については5学年、6学年男女共に県平均を下回る結果となりました。

◇郡平均の推移より

- ・郡平均の推移で見ると、学年ごとではばらつきはあるものの、「長座体前屈」「上体起こし」「50m走」については、コロナ後徐々に回復傾向にあることがうかがえます。「反復横とび」は下降傾向が続いています。

以上のことから、今後「筋持久力」「瞬発力」「敏捷性」を高める運動に力を入れていく必要があると考えます。